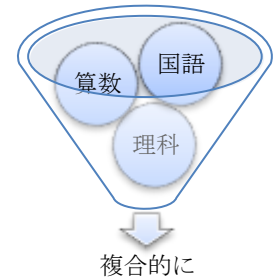


Plan 4月「単元まるごと活用」の共通理解

平成25年度 新たな飯田小学校「活用力」の育成の取組み

—「単元まるごと活用」の取組—



- 1 目標 基礎基本の習得と活用力をつける。
- 2 計画 活用力：思考力・判断力・表現力をつけるには……………

○スモールステップ … 毎日の授業において、着実に基礎基本の定着、既習活用を図る。また、必ず「自分の考えを筋道を立てて説明する場面」を設ける。

思考力・判断力・表現力 = 自分の考えを筋道立てて説明

- 課題設定
- 発問の工夫
- 系統性重視
- 思考を助ける板書
 - ・目に見える形
 - ・既習や身につけたものを総動員する活動

三角ロジック ⇄ 学び合い



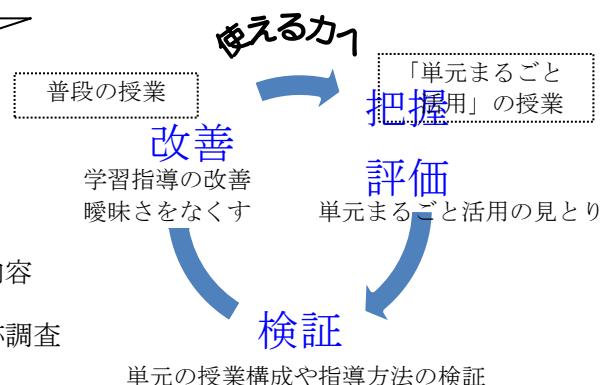
○ラージステップ … これまでの学んだことを生かして、複合的に考える場として、単元末に「単元まるごと活用」した授業を組む。
・既習を活用して課題を主体的に解決できるかを問う
(教師はこれまでの指導が問われる)

○補完するもの … スキルタイム、活用力タイム、言葉のスケッチ、読書、家庭学習

3 授業実践

4 検証

- (1) 単元まるごと活用の見取り
- (2) 全国・県・市の学力調査結果
 - 調査結果と記述内容
 - 質問紙調査結果と内容
- (3) 2月に実施している市販のCDTテストの追跡調査
- (4) 市販テストの活用問題
- (5) 学校評価
 - 学校評価重点目標の中に、めざす児童像の内容を評価指標として位置づけ
 - 児童・保護者・職員アンケート



Plan

4月「単元まるごと活用」実施に向けての共通イメージづくり

—— 単元末の「単元まるごと活用」の取組み ——

学んだことを活用する場

新学習指導要領「第Ⅰ章総則」では、各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実させていくことが書かれている。また、言語活動の充実は、「児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ」とことと密接に結びついている。

活用力を育成するためには、これまで学んできたことを関連づけ、複合的に考え、相手や目的意識、条件や場面意識、表現や理解の方法意識等を持って、答えていく力をつけていかなければならない。

そこで、今年度から本校では、児童が単元全体の学習を通して身につけた力を自覚し、学んだことを生かし、既習事項も踏まえて複合的に考える場として、単元末に「単元まるごと活用」の時間を設定することとした。日常生活における問題や他の教材（学習材）で単元のねらいとなる課題について取り組み、このことにより、単元でつけた力が身についたかどうか確認するとともに、実生活に生きて働く力となるようにする。

また、これまでの学習指導によって、子どもたちに思考させ、判断させ、表現させる場面・機会をどう実現できたか、そして、身につけさせたい活用力を育成できたかを見極める必要がある。「思考・判断・表現」に関わる観点の評価はしにくいものであるが、「単元まるごと活用」の時間は指導者にとっても、学習指導の自己評価のポイントとなると考えている。

1 「単元まるごと活用時間」の3つの場面設定の基本的な考え方

第1：「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 課題①「既習の学び」の意図的な活用
課題に対して、文字情報・音声情報・写真やグラフ・実物などから、その意味や意図や論理を、目的に合わせて正しく取り出し、理解する活動

第2：「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 … 課題②記述する場面と時間の設定
課題解決に向けて、目的・条件・方法意識を持って、根拠を明らかにしてこれまで学んだこと、本単元で学んだことを総動員し、複合的に思考を働かせて自分の考えを記述したり、表現したりする活動（複数の情報を関連付け、表現の様式を明確にして）

○条件設定… ①内容に関する条件 ②字数による条件

第3：「交流・確かめ」の活動場面

目的、条件、方法に照らして、自他の考えや表現のよさの交流

表現の適切さや必要な語句や用語の確認

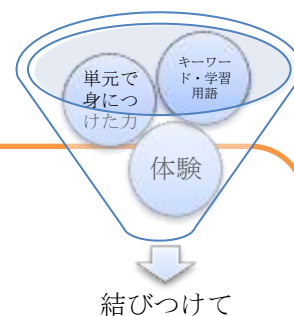
単元で学んだことが、日常生活や他の教材にも生かされることへの実感



実践していくために

Plan 「単元まるごと活用」の指導プランの共通理解

《国語科の場合》



- 1 学習材は？… ①系統表の関連教材から選ぶ
②他の教科書会社の教材から選ぶ
③全国学力学習状況調査問題等から選ぶ

- 2 課題は？ … ねらいを基本に、課題を設定する。記述させる際には、条件を入れる。

(例) 5年「のどがかわいた」の「単元まるごと活用」授業構成(詳細は、資料の実践記録を参照)

(「読むこと」の系統表より)

学期	1 学期
単元	人物のかかわり合いを読み、感想を書こう
教材名	「のどがかわいた」
ねらい	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて、作品についての自分の考えをもち、それを発表し合ったり広げたり深めたりすることができる。

■学習材 「三つのお願い」4年下(関連教材から選ぶ)
(4年時は「物語を読んで感想文を書こう」)

■課題

《第1「情報の取り出し・理解」の場》

第1発問 「登場人物の相互の関係を捉える」

- 人物像は？
- 関係の変化は？
- 対人物はだれか？

※意識させるキーワードを基に、情報の取り出し

《第2「思考・判断・表現・記述する」の場》

主発問 「人物のかかわり合いを読みとろう」

○記述 30字～50字

○条件 はじめと終わりの2人の関係を取りあげ、
思ったことと、その理由を書く

- 3 学習材の配布の仕方

(教材文)
B4 1枚で読める
(ワンペーパー)
ものを用意

《第3「交流・確かめ」の場》

■交流

既習やキーワードを意識して、自分の考えたことを交流、発表する。どのような表現や語彙が必要なのか(適切な表現)を確かめる。

※ 学んだことが生かされることを実感させる

《活用力の定着》

指導事項は、言語活動を通して子どもたちの能力として育まれるものであり、活用されることを通して初めて能力として定着する。

《算数科の場合》

全国学力学習状況調査の設問文には、「そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。」とあるように、単に公式に当てはめて答えを求めるだけでなく、その過程を論理的に説明することを求めている。

- 1 学習材は？ …①身の回りの生活に関わる数理的な事象から問題を設定する
②他の教科書会社の教材から選ぶ
③全国学力学習状況調査問題から選ぶ
- 2 課題は？ …単元目標、特に「数学的な考え方」「技能」の評価観点を踏まえた課題設定を行う。「言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする」

《課題設定の基本的な考え方》

(1) 考える必要のある場面を設定する

算数として価値のある、考える必要性・必然性のある問題場面

(2) 情報過多・情報不足の問題の提示

実生活の場面では、雑多な情報、過剰な情報の中から選択する力、また、情報が不足している場合には、どの情報があれば問題が解決できるかを見通す力が必要である。

また、公式を一つ当てはめれば答えが見つかるというものでなく、系統的な学習を生かし、複合的に考えて答えられるものにする。

(3) 関連づけたり、結果を振り返って思考させる問題の設定

問題文から式に表すことは、子ども達は基本的に慣れているが、結果から解決過程を振り返り、「どうやって導き出したのか」といった根拠や方法を思考する活動が十分でない。

○加法の問題

「合わせていくつになりますか？」ではなく、
「もっている数が8個になるわけを書きましよう。」といった説明を求めるもの

○他者の考えを読む問題

(例) 品物の代金 630 円でした。お姉さんが「1030 円にあと 100 円加えたら、おつりの硬貨の枚数が少なくなるよ。」と言いました。お姉さんの出し方の方が少なくなるわけを、言葉と数を使って書きましよう。(全国学力学習状況調査より)


- 3 情報の読み取りの場
必要な情報を取り出し、整理する。('場面' '条件' '求めるもの' の問題文からの取り出し)
- 4 算数的活動を通しての自力解決の場
- 5 交流・確認の場
○学んだことのよさ、算数的考えのよさを実感させる。

Do 授業実践 ⇒ 実践記録として保存し、今後の指導に生かす

【2年】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単 元 名		水のかさをはかろう（水のかさのたんい）
つきたい力		水のかさの単位の意味と測定の原理を理解し、体積の量の感覚を伴って測定ができる力。
(学ばせたいこと) キーワード		ミリリットル（mL）、デシリットル（dL）、リットル（L）のそれぞれの関係
学 習 材		<div>作成問題</div> <p>新しい水槽で生き物を育てるために、ひょうてん池の水を3人で3L7dLだけくんで来ます。入れ物は、4Lのペットボトル、2Lのペットボトル、500mLのペットボトル、200mLの牛乳パックがあります。ちょうど3L7dLだけくんでくることはできるでしょうか。</p>
本時のねらい		かさの合成・分解の考え方を生かし、かさを測り取る方法を考える。
本時の課題		学んだことを生活に生かそう
授 業 展 開	つかむ	「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用
		1 問題文を読み、条件をとらえ、予想をたてる。 ○水槽の大きさから、3L7dLが、およそどれだけかをとらえる。 ・dLとmLの関係について想起する。
	考える 学び合う	「思考、判断、表現・記述する」の活動場面
		2 水をくむ操作活動を行いながら、グループで考える。 ○考えた水の合成・分解を図と式に表す。 ・2L1回と5dLが3回と、2dLで3L7dLにして4Lのペットボトルに入れる。 $2L + 5dL + 5dL + 5dL + 2dL = 3L7dL$ ・4Lのペットボトルに水を入れたあと、5dLひいて2dL入れる。 $4L - 5dL + 2dL = 3L7dL$ 3 出された考えを式を手がかりに分類・整理する。
まとめる	「交流・確かめ」の活動場面	
	4 まとめる ・3L7dLをつくるには、たす考え方とひく考え方があった。 ・たしたりひいたりして、水のかさをつくることができた。	
板 書		

【5年】 国語科「単元まるごと活用」授業記録

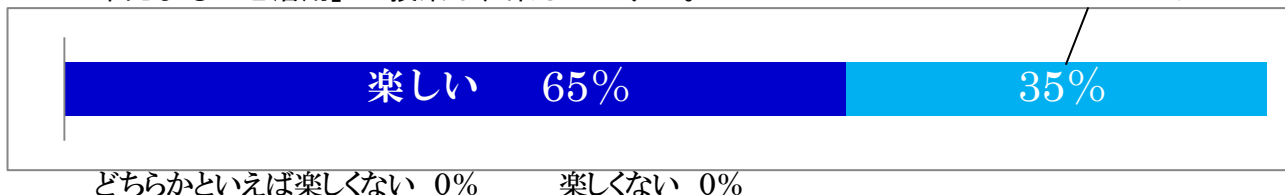
単 元 名	伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 教材名 「百年後のふるさとを守る」
つきたい力	目的に応じて、本や文章を比べたり関連させたりして読み、考えたことを発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(学ばせたいこと) キーワード	伝記 物語のように書かれている部分 事実の説明や筆者の考えが書かれている部分 人物がしたこと 人物の考え方
学 習 材	平成23年度全国学力調査・国語Bの□本文
本時のねらい	学んだことを生かし、伝記を比べて読み、叙述を多面的に捉えたり、自分の考えを深めたりすることができる。
本時の課題	植村直己さんの伝記を比べて読み、自分の考えを深めよう。
授 業 展 開	「情報の取り出し・理解」の活動場面 …「既習の学び」を意図的に活用
	つかむ 1 本時の課題をつかむ。 ・植村直己さんの伝記を比べて読み、自分の考えを深めよう。 2 資料から読み取ったことを伝え合おう。 ・資料1は「直己が」と書いてあるから評伝で、資料2は「私が」と書いてあるから自伝だ。 ・どちらもラジオ体操で仲良くなったことが書かれている。でも、資料1は楽しそうだし、資料2は必死で、読みとれる感じが違う。
	考える 学び合う 「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 3 伝記の続きを読むとしたら、どちらを読みたいですか。 ・自伝を読みたいです。自伝の方が、植村さんの気持ちがよく伝わります。気持ちが分かると、植村さんの生き方がよりわかるからです。 ・自伝を読みたいです。本人の気持ちが書いてあります。本当のことがわかるからです。 4 評伝はいらないのですね。 ・評伝は必要です。評伝には周りからみた気持ちが書かれています。 ・評伝がないと、周りから見てのことが残されません。亡くなってしまった人のことも残せません。だから評伝も必要です。
ま と め る	「交流・確かめ」の活動場面
	5 学習したことをまとめよう。 ・書き手が違うと、人物像のとらえ方が違う。 ・これから、いろいろな伝記を読んでいきたい。
板 書	
振 り 返 り	・子どもたちは、情報の取り出しはかなりできるようになっていたし、自伝と評伝の特徴をつかんだ上で、自分の考えを伝えることができていた。それは、この単元でキーワードを押さえることができていたと考える。子ども達にまとめ方については、教師側の工夫が必要である。



「単元まるごと活用」に関するアンケート結果（１学期）

〔６年１２名、５年８名、４年１４名 合計３４名の回答〕 Ｈ２５．７月

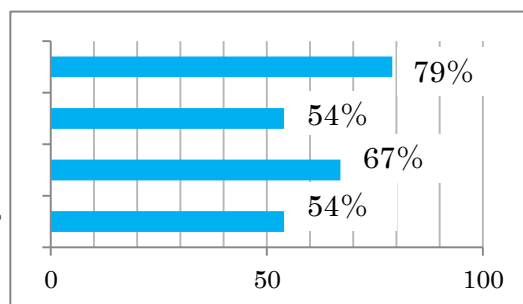
１ 「単元まるごと活用」の授業は、楽しいですか。 どちらかといえば楽しい



２ 「単元まるごと活用」の授業で、どんなところが楽しいですか。（複数回答あり）

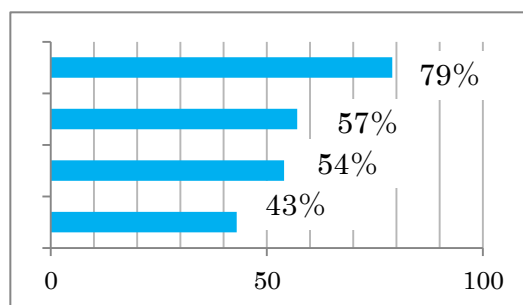
(国語)

- ①単元で学んだことを違う教材文で挑戦することができるので、楽しい。
- ②違う教材文を読んでも、単元で学んだことを使うことができるので楽しい。
- ③これまで学んだことの友達のいろいろな考えを聞くことができるので、楽しい。
- ④課題を解決するのに、たくさんのことを考える必要があるので、楽しい。
- ⑤その他 0%



(算数)

- ①難しい問題に挑戦することができるので、楽しい。
- ②これまで学んだことを生かして、答えを見つけることができるので楽しい。
- ③これまで学んだことの友達のいろいろな考えを聞くことができるので、楽しい。
- ④答えを見つけるのに、算数だけでなく他の教科のこともふくめて考える必要があるので楽しい。
- ⑤その他 0%



３ 「単元まるごと活用」の授業の感想

- 人の意見を色々聞けて楽しい。みんながつけてくれるので、新たな考えを発見しやすい。
- 単元で学んだことを違う単元でも生かせるから、楽しいです。
- １学期の「単元まるごと活用」をして難しかったけど、色々なことを違った文や問題に使えることが分かったのが良かったです。
- これまで学んだことの友達の意見をたくさん聞けるので楽しい。
- 単元で学んだことを生かせるので、より勉強になります。友達の色々な考えが聞けるので、自分の考えと比べることができるからうれしいです。
- 少し難しいけど、問題を解くために考えるのが楽しいので、これからも単元まるごと活用の授業をやりたいです。

アンケートから、既習学習を使って問題を解くことや難しい問題に挑戦できることが、児童の学習意欲を高めることにつながっている。学習意欲を大切にしながら、複合的に考える力を育てたい。

実践した記録をより生かすための改善→実践記録に「振り返り」項目を追加

「単元まるごと活用」の授業実践を進めていく中で、普段の単元の学習で身につけたい力を使える力として定着させてきたか、反省すべきことが多く見えてきた。そこで、「単元まるごと活用」の実践記録の項目に「振り返り」を設定し、単元を振り返り、今後の指導に生かしていけるようにした。

V 授業力向上のためにやったことは？

学びの連続性を意識しての取り組み……

1 「指導の手立て(意識すること)」の作成

子ども達の確かな学力向上のためには、教師の授業力向上が不可欠である。児童が分かった、できた喜びを実感させるためには、日々の授業を充実させる必要がある。その中で、担任が変わるごとに、ノートを取り方が変わったり、板書の構成や学習ルールが変更になったりすると、戸惑うのは子ども達である。また、1年かけて積み上げてきたものが、担任が変わるごとに消えしまうのでは意味がない。

ここで大切にしたのは、子ども達の学びの連続性である。板書やノートを取り方の共通実践をはじめ、これまでの校内研修、学校研究で培ってきた基本的な指導方法や実践内容をワンペーパーにまとめ(指導の手立て)、パウチして教室に置いて、全職員が基本的な共通実践の学習指導として生かしている。



国語科の「指導の手立て(意識すること)」



算数科の「指導の手立て(意識すること)」

2 国語科「物語文・説明文」と算数科の系統表の作成

国語科の授業を行う際には、どの段階でどのような言語に関する知識や技能を身に付けさせるのか、つけたい力を明確にして、系統的に基礎的・基本的事項の定着を図らなければならない。

そこで、「単元を貫く言語活動」を明確に位置づけ、系統性を踏まえての単元全体を見通した授業構想を立てることができるように、国語科の「読むこと」に関する「物語文・説明文」の系統表を作成した。

※項目は、「ねらい」をはじめ、「5つの言語意識」

「学ばせたいこと」「意識させるキーワード」

「学習用語」「文章構成」「読書との関連」等である。

算数科の学習では、児童が新しい内容を学習する際に、これまで学習してきたことと関連付けて考えたり、根拠を基に筋道を立てて考え・表現したりすることが大切である。そのような学習活動においては、学習内容のつながりを明確に児童に意識させるために、教師が指導内容の系統性を明確にし、児童の実態に基づいた学習指導を工夫することが必要である。そこで、現行の学習指導要領や教科書等を参考に、指導内容の系統表を作成した。

国語科物語文・説明文系統表

学年	1 学期	2 学期	3 学期
1 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り
2 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り
3 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り
4 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り
5 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り
6 年	「物語文」の読み取り	「説明文」の読み取り	「物語文」の読み取り

算数科系統表

学年	1 学期	2 学期	3 学期
1 年	数の概念	数の概念	数の概念
2 年	数の概念	数の概念	数の概念
3 年	数の概念	数の概念	数の概念
4 年	数の概念	数の概念	数の概念
5 年	数の概念	数の概念	数の概念
6 年	数の概念	数の概念	数の概念

3 ノートの書き方についての共通理解

4月に、学年に応じたノートの書き方の共通理解を図って、授業開きを行っている。

【ノートについて（国語）】

【1年生】＊先生の指示に従って、板書通りに正しく写すことができる

- ・正しい鉛筆の持ち方
- ・よい姿勢
- ・日づけや課題を丁寧に書く
- ・一マスあけるなど先生の指示通りに書く
- ・文の終わりに句点をつける

【2年生】＊板書通りに丁寧に正しく写す、大切なところは赤で書くなどの約束を決めて書く

- ・板書を見て、正しく写す
- ・学習した順序が分かる
- ・教師と同じスピードで書く（雑にならないように）
- ・大切な言葉は色を変えて書く

【3年生】＊黒板に書かれた言葉や文をもとに自分の考えも入れて、授業中に考えたことが残るノート

- ・自分の考えと友だちの意見をわけて書く
- ・色の使い分け
- ・一行あけて書くなど見やすさの工夫

【4年生】＊板書を参考にして、自分の考えを書き加えるノート

- ・自分の考えと友だちの意見を分けて書く
- ・色分けに加え、矢印などの工夫

【5年生】＊自分の考えと友だちの発表を比べたり、意味調べをしたり、学習の経緯がわかるノート

- ・自分の考えと友だちの意見を分けて書く
- ・辞書でひいた言葉をメモする
- ・共感したところ、納得できないところなども書く
- ・矢印や枠を使う

【6年生】＊オリジナルノートへ。自分の気づきや言葉が広がるノート。

<1～3年>

まとめ・ふりかえり	⑤ (三年生)	考え	課題	日付け
				No.

<4～6年>

まとめ・ふりかえり	⑤	考え	課題	日付け
				No.
	⑤	理由⑤	根拠 (文章・資料等)	

【ノートについて（算数）】

【1年生】＊先生の指示に従って、板書通りに正しく写すことができる

- ・正しい鉛筆の持ち方
- ・よい姿勢
- ・日づけや課題を丁寧に書く
- ・一マスあけるなど先生に指示通りに書く

【2年生】＊板書通りに丁寧に正しく写す、大切なところは赤で書くなどの約束を決めて書く

- ・板書を見て、正しく写す
- ・学習した順序が分かる
- ・教師と同じスピードで書く（雑にならないように）
- ・大切な言葉は色を変えて書く

【3年生】＊黒板の式や図、言葉をもとに自分の考えも入れ、授業中に考えたことが残るノート

- ・自分の考えと友だちの意見をわけて書く
- ・色の使い分け
- ・一行あけて書くなど見やすさの工夫

【4年生】＊板書を参考にして、自分の考えを書き加えるノート

- ・自分の考えと友だちの意見を分けて書く
- ・色分けに加え、矢印などの工夫

【5年生】＊他の人の意見と比べたり、ポイントが分かる工夫をしたり、学習の経緯がわかるノート

- ・自分の考えと友だちの意見を分けて書く
- ・大切なポイントを書き込む
- ・分からなかったところや、疑問点も書きこむ
- ・矢印や枠を使う

【6年生】＊オリジナルノートへ 自分の気づきや言葉が広がるノート

< 1 ～ 3 年 >

日付け	No.
問題	
課題	
考え わけ ㊤（三年生）	
まとめ・ふりかえり	

< 4 ～ 6 年 >

日付け	No.
問題	
課題	
考え（式・答え） 理由（方法・理由等） 根拠（公式やきまり、資料の読み取り等） ㊤	
まとめ・ふりかえり	

4 校内研修の充実

毎週木曜日を校内研修の日とし、研究主任による年間計画に基づいて研修を積み重ねている。

研究授業は、模擬授業をはじめワークショップ型の授業整理会を実施し、視点を明確しながら課題や改善すべき点を明らかにして、日々の授業改善に生かしている。



模擬授業の様子



校内研究授業の様子



授業整理会後に書いている「学んだこと」

【 授業研究・授業整理会から学んだこと 】 平成25年10月1日(火)

○ 5年国語「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」の研究授業・授業整理会から「学んだこと」「次に生かしたいこと」

- 読み取ったことを、朗読で表現する難しさ。
- 朗読、音読指導の難しさ。心情を理解できず、それを朗読でどう表現するか。
- 朗読取れなくても表現できない難しさ。
- 取れる部分と考えさせる部分のメリハリ。
- ノートづくり(自分の考えの経路や考えや友だちの考えなどしっかりと書いている)。
- 認め合う習慣化、激励などのすてきな年組づくり。
- 課題
- 第三夜へつなぐ第二夜の研究授業(子ども、教師も集中して取り組んでいる。共通理解)。
- 第三夜を見逃した授業づくり。
- 学び合いを満喫するための教師と子どもの呼吸のリズムづくり。
- 学び合い、つなぐや意見を発表することのよさ。テンポのリズムがある。
- 「静」のつく授業
- 学びが生き生きと伝わる年組をつくる。

授業研究・授業整理会から学んだこと 10月1日(火)

名前

○ 5年国語「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」の研究授業・授業整理会から「学んだこと」「次に生かしたいこと」を箇条書きで書いて下さい。(3つまで)

- * 読み取ったことを、朗読で表現する難しさ。
- * 三角ロジックの根拠や理由を述べるか否かを自己判断する必要性。
- * 学び合いを満喫するための教師と子どもの呼吸のリズムづくり。(テンポよく)

研究授業の整理会を終えた後、各教師が業や整理会から学んだことを書いて、研究授業ごとに全職員の記録を残し、日々の実践に生かしている。

VI 学校研究の検証はどのように行っていますか。

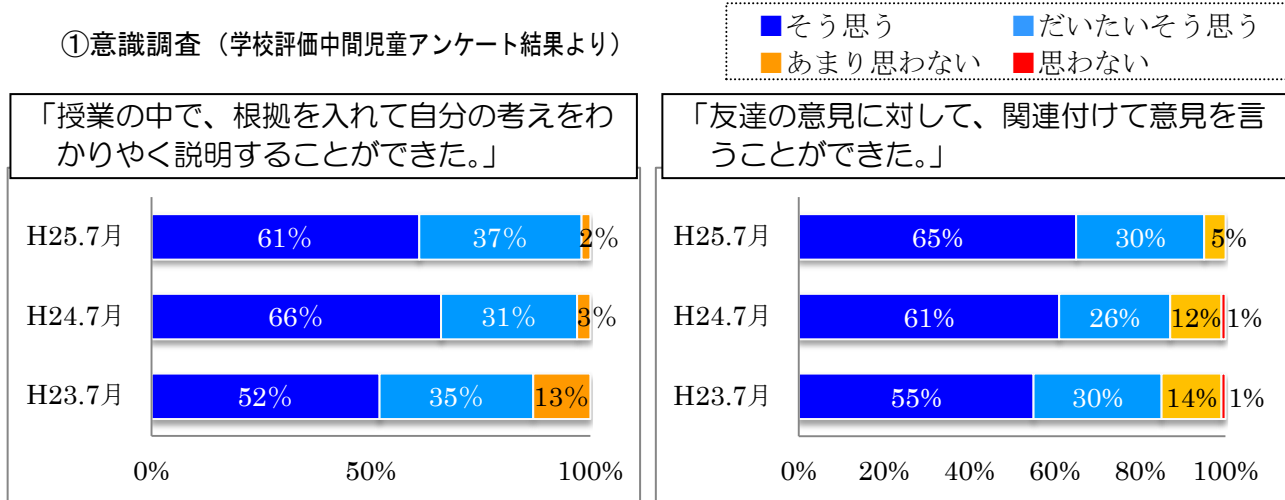
1 学校研究の検証

検証とは、仮説の有効性を調べることであり、仮説として立てた手立てを用いたことにより、予想する結果どおりに児童が変容したかを確かめることであると考えて、検証を行った。

(1) 児童と保護者の意識調査から

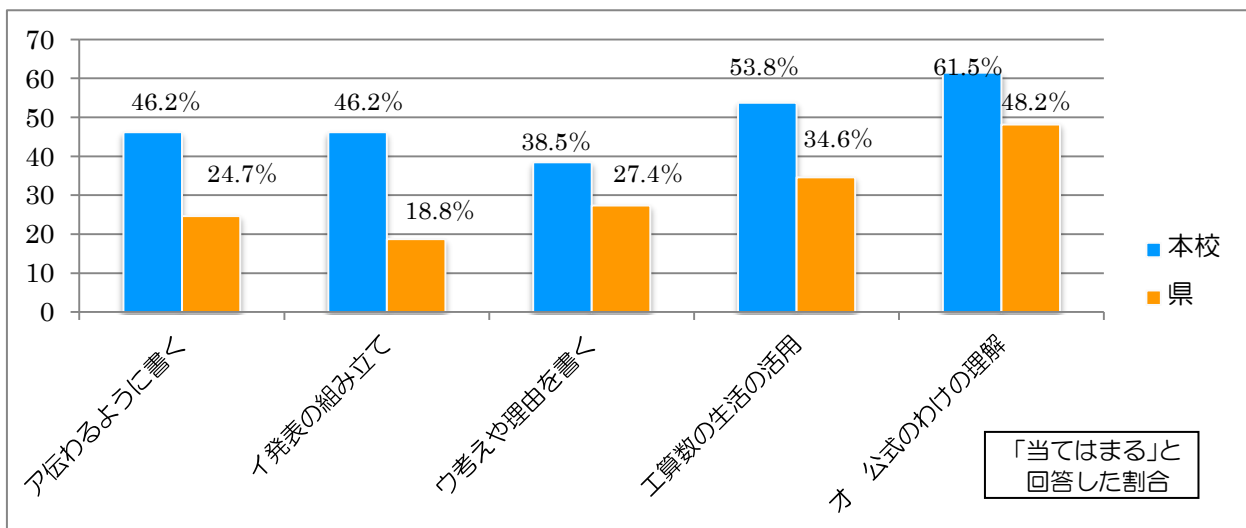
児童の現状における課題を解決し、活用力向上をめざした子ども像になっているか、児童、保護者の意識調査（学校評価中間アンケート）と全国学力学習状況調査質問紙からの検証を行った。

①意識調査（学校評価中間児童アンケート結果より）



②平成25年度 全国学力学習状況調査（質問紙調査結果）

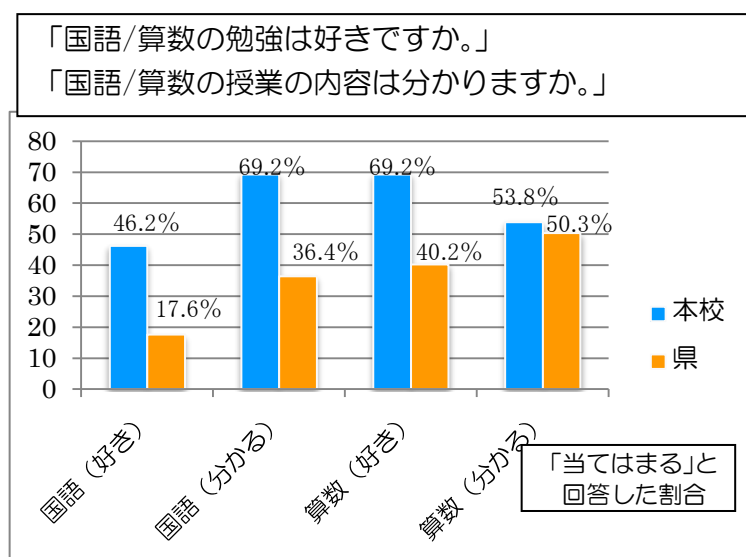
ア「国語の授業で、調べたことや自分の考えたことを読み手に伝わるように気を付けながら書いていますか。」
 イ「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。」
 ウ「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」
 エ「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」
 オ「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」



児童の98%が、根拠を入れて自分の考えを説明できていると考えており、また、友達の見解に対して、関連付けて意見を言えると感じている児童は、年々増えてきている。また、全国学力学習状況調査質問紙調査においても、県と比べても、自分の考えを相手に伝える際に、相手意識を持って、わけや理由を明確にして書いたり説明したりする意識が高い。

これらは、授業の中で「三角ロジック」を使って説明する場面を設定し、根拠や理由を明確にして発表することが定着してきたことと、「学習を支える力」として共通理解を図って取り組んできた学習に向かう姿勢が身に付き、友達の見解をしっかりと聴き、つなげて意見を発表するという意識や姿勢の高まりによるものと思われる。

平成25年度 全国学力学習状況調査 質問紙調査より



また、「国語、算数の勉強が好きか、その授業の内容が分かるか」という調査結果においても、本校の児童の肯定的な意識は高い。

中でも、昨年度は国語科を中心に研究を進めてきたことで、「国語の授業の内容が分かる」と答えた児童が約7割いた。

これは、教師自身が付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を大切にしながら、学習用語やキーワードを生かした授業の成果だと考えている。

※その他として、「最後まであきらめずに問題を解こうとした児童」が100%

③保護者アンケートの結果 (平成25年7月 学校評価中間アンケートより)

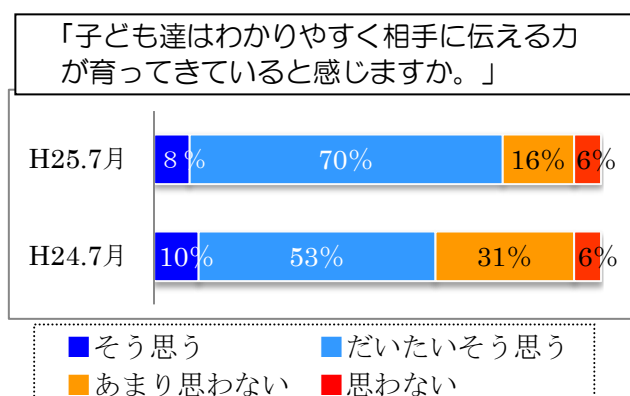
保護者の約8割は、相手にわかりやすく伝える力が育ってきていると感じており、昨年に比べても肯定的な思いを持っている保護者が増えてきている。ただし、他のアンケート項目と比べると、まだまだ低い数値である。

(資料 学校評価だより参照)

今後も、教師、児童保護者の三者の共通理解を大切にしながら、学校研究を進めていきたい。

○学校関係者評価委員 (PTA母親代表) より

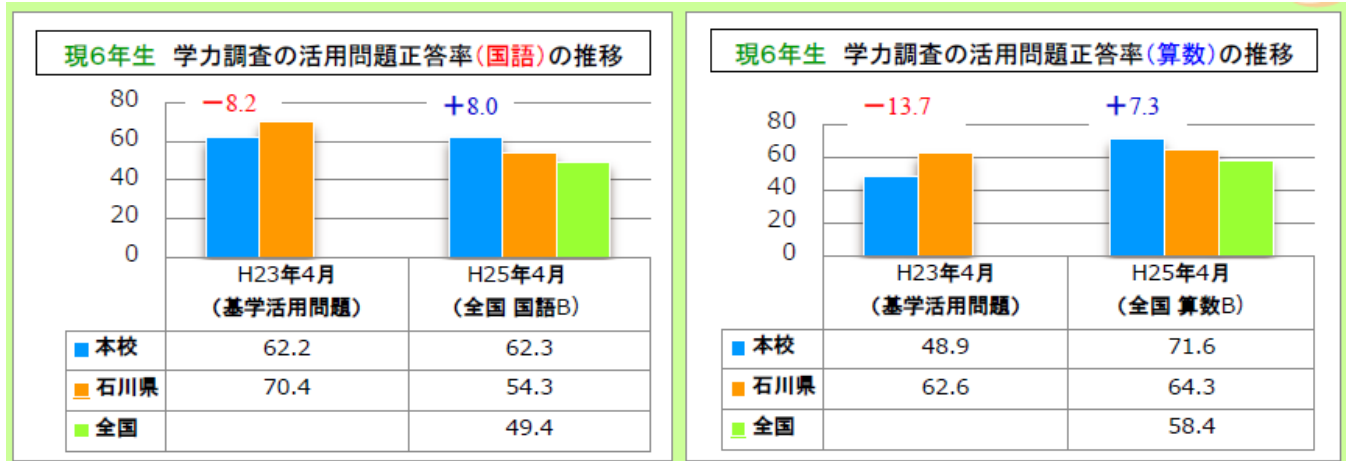
スキルタイムや筋道立てて説明する力等の取組がされているので、学力の定着と向上につながっていると思います。上の子(現 高校生)と比べて、体験活動、体力向上、学力向上のための取り組みが充実しています。特に、児童の発表する話し方がレベルアップしています。



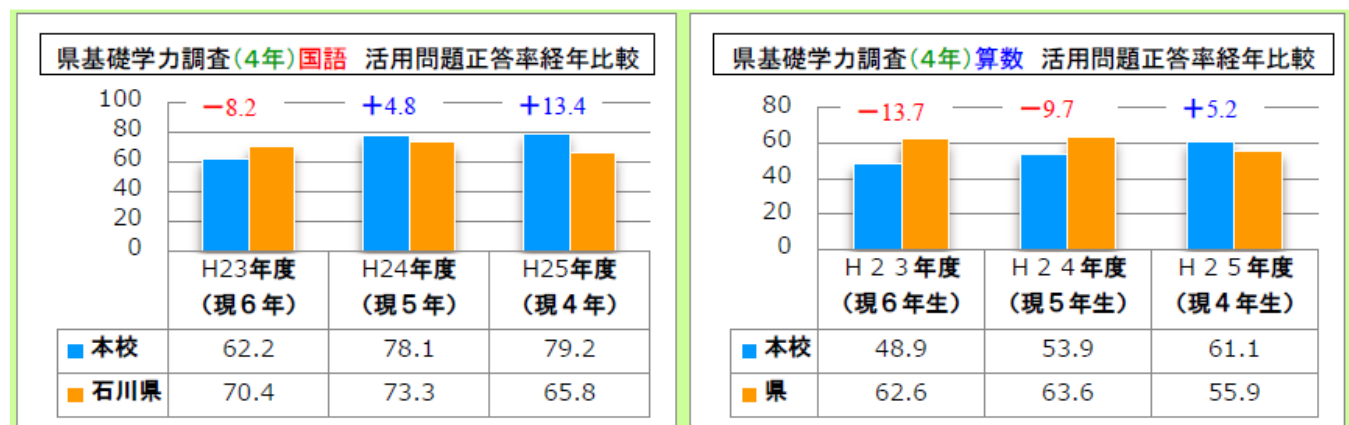
(2) 学力調査の結果から

全国学力学習状況調査結果および石川県基礎学力調査結果から、記述式を含んだ大問の経年比較や現6年生の結果の変化を県と比較して、学力調査における活用力にどのような変容があったかをみた。

①現6年生の4年時と6年時の学力調査結果の比較



②県基礎学力調査 4年時の経年比較



三角ロジックの手法により、筋道を立てて根拠と理由を示して説明する思考が身に着的ことで、回答の仕方が分かり、最後まであきらめずに解こうとする意欲につながったものと考えられる。また、そのことが無回答率を大きく減らす要因になった。

活用力を問う問題では、現6年生の推移をみても、力がついてきている。対象が違いため単純には比較できないが、4年生の活用問題の正答率の変化をみて、学校全体の活用力が育ってきていると思われる。

ただし、全国・県の学力調査結果を分析したところ、国語、算数科において下記の課題が依然としてみられる。

(国語) ▲目的に応じた読みをしたり、複数の資料から必要な情報を選択し、提示された条件に応じて自分の考えを書いたりすること(準正答が多くみられる)

(算数) ▲事柄の関係を式に表したり、場面から式や計算の結果の意味を読み取り、言葉や図を用いて表したりすること

(3) 学校評価と連動した検証

本校の研究主題をはじめ、いしかわ学びの指針12カ条の内容を、学校評価の重点目標項目に反映させながら、指導改善を効果的に進める体制を構築している。

今年度の学校評価は、7つの長期目標と15項目の重点目標を設定した。その項目は、「活用力を高める授業づくり」「学力・学習を支える基盤づくり」「指導改善を進める体制づくり」に関連しており、本校の課題となっているものである。

7月の中間評価において、児童、保護者、教職員のアンケートを実施するとともに、評価指標に基づいた中間自己評価および学校関係者評価に基づき検証し、具体的な改善を進めている。

(詳細については、資料として添付した「学校評価だより」を参照)

●平成25年度重点目標(15項目)の抜粋

	本年度重点目標	評価指標	判定基準
学校づくり	【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを充実させ、学習への意欲の向上と自己肯定感を高める。	(児童アンケート) (保護者アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない 「お子さんは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。 イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート 保護者アンケートともに A…アが90%以上 B…ア+イが90%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下
	【筋道を立てて説明できる力の育成】 根拠あげ、学習用語を使って、筋道を立てて自分の考えを説明できる児童を育成する。	(児童アンケート) 「相手を意識し、わかりやすく説明することができましたか。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	A…アが90%以上 B…アが80%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下
	【学力向上の基盤づくり】 基礎的・基本的知識を定着させ、児童の「書く力」「話す・聞く力」の伸長を図る。	(教育行動計画の達成率) 教育行動計画書の「学び方」と「学力向上」に関する目標について、各学級目標を達成する。 各学級の平均達成率90%以上が ア 12項目 イ 10項目以上 ウ 7項目以上 エ 6項目以下	A…ア B…イ C…ウ D…エ
基礎・基本の定着と学力向上	【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの学習習慣を確立する。	(家庭学習調査結果) バランスアップカードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ

VII 成果と課題

《成果》

- 1 三角ロジックの手法を取り入れた説明を取り入れたことで、キーワードを基に根拠、理由を見つけ出す思考が身についてきている。そのことにより、学力調査問題記述式にも対応ができ、同時に無回答が減ったと考えられる。
- 2 「単元まるごと活用」については、児童の学習意欲を高め、日常生活での課題や教科を横断する複合的な課題に対して、学んだことを活用し、複合的に考える力（多面的に捉える）が身についてきていると考えている。また、学習意欲を高めることにもつながっている。
- 3 「学習の身につけたい力」「学習指導の基本的な方向性」「学年に応じたノート指導」など共通理解を図り、「系統表」作成により、子ども達の「学びの連続性」を意識した授業が行われ、子ども達にとって学びやすい環境をつくることができてきている。
- 4 「単元まるごと活用」の授業を行うことで、子どもたちが課題に戸惑う姿や説明で既習事項を使えない姿に直面し、これまでの授業指導で足りなかったことや曖昧にしていたことが見え、指導者自身が自覚することにつながった。このことにより、使える学力にするため、普段の授業の指導改善につながっている。
- 5 「言葉のスケッチ」によって、条件や交流時間を設けることで、語彙力、表現力がゆっくりであるが豊かになりつつあり、意図を持った表現や技法が見られるようになってきた。

《課題》

- 1 自分の考えを筋道を立てて説明できる力が育ってきているが、学び合いを充実させようとする、まとめの時間が十分取れないこともあり、テンポのよい授業を授業者、学習者とも持つ必要がある。
また、字数制限で書かせる場合に、説明で必要とされ語句や用語、キーセンテンスを選んだり、本文からの適切な引用については、まだまだ不十分であり、説明で落としてはいけないことは何か、考えさせる場、交流する場が必要である。
- 2 「単元まるごと活用」の授業実践を通して、これまでの普段の授業の指導の曖昧さが見えてきた。
(1) 話し言葉で説明できても、記述(書き言葉)では適切な語句や用語が使えない。
(発表の際、「これは」「これを使って」などと言っているものを適切な語句に言わせる必要がある。)
(2) 理解していることと、使えることとは違い、特に曖昧な理解は、曖昧な根拠となっている。
- 3 「単元まるごと活用」によって身についた活用力の評価は、教師の見取りが中心であり、子ども達の変容を評価する指標や具体的な評価方法を考えていく必要がある。

(メモ)

《 全体会 》

《 分科会 》

学力向上に成果があがっている学校は・・・・・・・・

第1に 教職員間の意思疎通がよい。

第2に 学力向上のための明確な方針と、教員、学年、学校として力量を高めようとしている。書かれた方針が存在している。

第3に 校内研修が充実している。

第4に 地域や家庭との信頼関係をつくっている。

第5に 生徒指導等において一貫性がある。

平成25年度 研究同人

大宮 宏志	高田 勝弘	塚田真紀子	三盃美千郎
角 みのり	倉見 倫代	浪元 健司	高井 菜月
廣澤 裕巳	二見美代子	寺西 良子	大谷 昭博
浦 はるみ	盆田 和美	道下 幸子	岩垣 明子
出村 裕幸			

平成24年度 研究同人

大宮 宏志	高田 勝弘	塚田真紀子	田保 衣子
松盛るり子	西 敏之	三盃美千郎	角 みのり
倉見 倫代	浪元 健司	高井 菜月	田保美穂子
寺西 良子	大谷 昭博	浦 はるみ	道下 幸子
岩垣 明子	出村 裕幸		

平成25年度 第2回公開授業研究発表会

平成25年10月29日発行

発行者 珠洲市立飯田小学校
〒927-1214

珠洲市飯田町19部61番地
TEL・FAX (0768)82-0044

